

# 2019年3月期 決算説明会

西華産業株式会社  
(東証1部 証券コード8061)

2019年5月27日

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。



1

Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

皆様、こんにちは。  
社長の櫻井でございます。

皆様方には、平素より西華産業にご関心をお寄せ頂き、  
また、決算説明会にご出席たまわりまして、誠にありがとうございます。  
でございます。

それでは、2019年3月期の決算説明を始めさせて頂きます。

## 目次

1. 2019年3月期 連結決算概要
2. 2020年3月期 連結決算予想
3. 中期経営計画
4. 株主還元（配当、自己株式取得）

### ★参考資料★



Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

2

本日は、

- ・ 2019年3月期の連結決算概要、
- ・ 2020年3月期の連結決算予想、
- ・ 中期経営計画
- ・ 株主還元

について、スライドを用いてご説明させていただきます。

なお、投資家の方々よりご要望いただいております、業績の推移表などにつきましては、参考資料に纏めておりますのでどうぞご覧ください。

## 1. 2019年3月期 連結決算概要

---



Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

3

まずはじめに、連結決算概要について、ご説明いたします。

2019年3月期 連結決算概要			
	2018年3月期	2019年3月期	前増減率
受注高	138,454 百万円	<b>150,429 百万円</b>	+8.6 %
売上高	165,585 百万円	<b>157,145 百万円</b>	△5.1 %
営業利益	2,598 百万円	<b>2,118 百万円</b>	△18.5 %
経常利益	2,877 百万円	<b>2,418 百万円</b>	△15.9 %
親会社株主に帰属する当期純利益	1,655 百万円	<b>1,587 百万円</b>	△4.1 %



Copyright©2019 SEIKA CORPORATION 4

当社グループの業績は、  
受注高は、前期比8.6%増の 1,504億2,900万円  
となりました。

売上高は、 1,571億4,500万円  
営業利益は、 21億1,800万円  
経常利益は、 24億1,800万円  
親会社株主に帰属する当期純利益は、  
15億8,700万円  
でありました。

2019年3月期 連結決算概要 (セグメント別売上高およびセグメント利益の実績)						
	売上高			セグメント利益		
	2019年3月期	前増減	期率	2019年3月期	前増減	期率
電力事業	47,633百万円		△4.2%	1,407百万円		△28.9%
化学・エネルギー事業	53,682百万円		+115.7%	761百万円		+10.1%
産業機械事業	42,667百万円		△44.0%	1,363百万円		△23.2%
素材・計測事業	1,519百万円		△35.6%	△174百万円		+16.5%
グローバル事業	11,642百万円		△6.6%	402百万円		2018年3月期 セグメント損失 91百万円
合計	157,145百万円		△5.1%	3,760百万円		△9.3%



Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

5

各事業ごとの売上高、セグメント利益の実績は、次の通りであります。

電力事業においては、売上高は前期並みでしたが、特命工事など利益率の高い案件が減少した結果、セグメント利益は前期に比べて減少しました。

化学・エネルギー事業は、石油会社向け新設発電設備等の売上が貢献し、売上高、セグメント利益とも増加いたしました。

産業機械事業は、リチウムイオン電池用関連設備の受渡しの期ずれが影響し、売上高、セグメント利益とも減少いたしました。

素材・計測事業は、プリント基板商談の不調に加え、子会社 西華デジタルイメージの業績不振の結果、売上高は減少いたしました。

事業戦略の見直しや、構造改革に取り組んだ結果、セグメント損失は減少いたしました。

最後に、グローバル事業です。  
欧州子会社のツルミヨーロッパおよび西華産業ドイツの業績が順調に推移しましたが、中国子会社の西擘貿易(上海)およびタイ子会社の西華産業タイランドの売上が前期を下回った結果、売上高は減少しました。

また、セグメント利益は、タイ子会社の西華YKCサーキット(タイランド)が低迷したものの、欧州子会社の収益が寄与し、前期に比べて大幅に回復いたしました。

各事業の今後の取組みにつきましては、後ほどご説明いたします。

2019年3月期 連結決算概要 (セグメント別 受注高および受注残高の実績)						
	受注高			受注残高		
	2019年3月期	前増減	期率	2019年3月期	前増減	期率
電力事業	40,298百万円	△13.8%		30,052百万円	△19.6%	
化学・エネルギー事業	49,827百万円	+55.7%		62,481百万円	△5.8%	
産業機械事業	47,724百万円	+7.5%		64,314百万円	+8.5%	
素材・計測事業	570百万円	△80.6%		438百万円	△68.4%	
グローバル事業	12,008百万円	△3.0%		2,822百万円	+14.9%	
合計	150,429百万円	+8.6%		160,110百万円	△4.0%	



Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

6

こちらは、各事業の受注高および受注残高の実績です。

受注高は、化学・エネルギー事業において、化学会社向け新設の発電設備、160億円の受注があり、大幅に伸長いたしました。

受注残高は、化学・エネルギー事業において、260億円の大口案件が売上計上されたものの、他の案件の積み上げにより1,600億円を維持することが出来ました。

この受注残高は、当社グループのほぼ1年分の売上高に相当するものであり、今後確実に売上に反映させて参ります。

## 2. 2020年3月期 連結決算予想

---



Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

7

それでは、  
現進行期の連結決算予想につきまして、ご説明いたします。

2020年3月期 連結決算予想				
	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	増減額 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	157,145百万円	<b>135,000百万円</b>	△22,145百万円	△14.1%
営業利益	2,118百万円	<b>2,400百万円</b>	282百万円	+13.3%
経常利益	2,418百万円	<b>2,700百万円</b>	282百万円	+11.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,587百万円	<b>1,650百万円</b>	63百万円	+3.9%
受注高	150,429百万円	<b>184,000百万円</b>	33,571百万円	+22.3%
受注残高	160,110百万円	<b>209,000百万円</b>	48,890百万円	+30.5%



8  
Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

売上高は、 1,350億円  
 営業利益は、 24億円  
 経常利益は、 27億円  
 親会社株主に帰属する当期純利益は  
 16億5,000万円

と予想しております。

なお、受注高は、 1,840億円  
 受注残高は、 2,090億円  
 を見込んでおります。

## 2020年3月期 連結決算予想

電力事業	2019年3月期 実績	2020年3月期 予想	増減率予想 (前期比)	事業内容
売上高	476.3 億円	<b>380 億円</b>	△20.2%	電力会社や共同火力向けに、ボイラー、ガスタービンなどの発電設備、環境保全設備の販売。 原子力発電所向けにセキュリティ設備や消火設備などを販売しております。
セグメント利益	14.0 億円	<b>17.5 億円</b>	+25.0%	
受注高	402.9 億円	<b>660 億円</b>	+63.8%	
受注残高	300.5 億円	<b>580 億円</b>	+93.0%	

電力事業 売上高・セグメント利益推移



9

Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

ここからは、セグメント毎の予想についてご説明いたします。

まず、電力事業につきましては、火力発電所向け案件は引き続き厳しい環境にありますが、原子力発電所向け商談にも注力することで、

売上高は380億円、セグメント利益は17億5,000万円を予想しております。

なお、受注高は、火力発電所向けの定期検査工事等の大口受注により660億円、受注残高は580億円を予想しております。

## 2020年3月期 連結決算予想

電力事業について 2019年4月 敦賀事務所開設



また、本年4月に、当社初となる北陸方面の拠点として、敦賀事務所を開設いたしました。

この地域には、ご覧の通り多くの発電所がありますので、今までの経験を活かし、電力事業の新たな収益源となる様、積極的に活動を推進して参ります。

## 2020年3月期 連結決算予想

化学・エネルギー事業	2019年3月期実績	2020年3月期予想	増減率予想(前期比)	事業内容
売上高	536.8 億円	<b>330 億円</b>	△38.5%	化学会社、石油会社、製紙会社、鉄鋼会社、鉄道会社向けに発電設備やプロセス用製造設備を販売しています。
セグメント利益	7.6 億円	<b>9.0 億円</b>	+18.4%	
受注高	498.2 億円	<b>460 億円</b>	△7.7%	
受注残高	624.8 億円	<b>755 億円</b>	+20.8%	

化学・エネルギー事業 売上高・セグメント利益推移



敷島機器  
船用・陸用エンジン



化学プラント



11

Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

次に、化学・エネルギー事業ですが、現進行期に引き渡される大口の新設発電設備はなく売上高は330億円を予想しております。

子会社の敷島機器の業績回復によりセグメント利益は、9億円の予想で増益を見込んでおります。

なお、受注高は、鉄鋼会社および化学会社向けに発電設備の更新工事等を見込み、前期並みの460億円、受注残高は755億円を予想しております。

## 2020年3月期 連結決算予想

産業機械事業	2019年3月期実績	2020年3月期予想	増減率予想(前期比)	事業内容
売上高	426.6 億円	<b>480 億円</b>	+12.5%	電気自動車、新素材、繊維、フィルム、飲料など幅広い産業分野の顧客に対して、設備や機器を販売するほか、メンテナンスも提供しております。
セグメント利益	13.6 億円	<b>10.0 億円</b>	△26.5%	
受注高	477.2 億円	<b>550 億円</b>	+15.3%	
受注残高	643.1 億円	<b>710 億円</b>	+10.4%	

産業機械事業 売上高・セグメント利益推移



日本ダイヤバルブ ダイアフラムバルブ他



リチウムイオン電池用関連設備



Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

12

次に、産業機械事業をご説明いたします。

本事業は、電気自動車、新素材、繊維、フィルム、飲料など幅広い分野に商材を展開し、最近では、健康食品向け大型プラントも手掛けております。

現進行期の売上高は、前期から期ずれいたしましたリチウムイオン電池用関連設備等の一部受渡しがあり、480億円を見込んでおります。

セグメント利益は、昨年好調であった子会社の日本ダイヤバルブの収益が例年並みに落ち着くことから、10億円を予想しております。

なお、受注高は550億円、受注残高は710億円を見込んでいます。

## 2020年3月期 連結決算予想

素材・計測事業	2019年3月期実績	2020年3月期予想	増減率予想(前期比)	事業内容
売上高	15.1 億円	20 億円	+32.5%	先端技術を駆使した計測機器を始め、産業機械向けの環境保全用計測装置や、水処理関係装置などを幅広く扱っております。
セグメント利益	△1.7 億円	0.5 億円	-	
受注高	5.7 億円	20 億円	+250.9%	
受注残高	4.3 億円	5 億円	+16.3%	

素材・計測事業 売上高・セグメント利益推移 (単位：百万円)



13

Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

素材・計測事業は、昨年度、赤字からの脱却を目指し、事業の戦略見直しや組織変更を実施いたしました。

現進行期は、子会社 西華デジタルイメージの業績回復に加え、環境・保安設備向けガス濃度モニター等の計測事業を強化することで、売上高は20億円、セグメント利益は5,000万円、受注高は20億円、受注残高は5億円を予想しております。

## 2020年3月期 連結決算予想

グローバル事業	2019年3月期実績	2020年3月期予想	増減率予想(前期比)	事業内容
売上高	116.4 億円	<b>140 億円</b>	+20.3%	(欧州) 車載関係の産業用ロボット販売のほか、水中ポンプの販売およびレンタル事業を展開。
セグメント利益	4.0 億円	<b>3.0 億円</b>	△25.0%	(北米) 日系自動車関係にエレクトロニクス基板実装関連機器を販売。
受注高	120.0 億円	<b>150 億円</b>	+25.0%	(アジア) 繊維、化学、その他一般産業向けに機械設備の販売。
受注残高	28.2 億円	<b>40 億円</b>	+41.8%	

グローバル事業 売上高・セグメント利益推移 (単位: 百万円)



Seika Machinery, Inc.  
自動車業界向けの基板実装関連設備



Seika Sangyo (Thailand) Co., Ltd.  
自動車・化学・繊維産業向け産業用機械



Seika Sangyo GmbH  
産業用機械・電子情報システム機器



14

Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

最後に、グローバル事業につきまして、ご説明いたします。

現進行期の売上高ですが、欧州子会社の西華産業ドイツ、ツルミヨーロッパ、米国子会社の西華マシナリー、そして、タイ子会社 西華産業タイランドの業績が堅調に推移すると共に、中国子会社 西擘貿易(上海)の業績が回復する事から、140億円を予想しております。尚、ツルミヨーロッパは、昨年、過去最高の売上高を計上しましたが、更なる事業拡大の為、新たな販売拠点設立も検討しております。

セグメント利益は、タイ子会社 西華YKCサーキット(タイランド)の量産開始遅れの影響を受け、3億円に留まる見込みです。

受注高は、台湾、シンガポール、韓国の各海外支店において商談開拓が順調に進んでおり、事業全体では150億円を予想しております。

なお、受注残高は40億円の予想です。

## 2020年3月期 連結決算予想

グローバル事業について 2019年1月 ベトナム現地法人営業開始

 Bitexco financial tower	SEIKA SANGYO (VIETNAM) COMPANY LIMITED 会社概要	
	所在地	ベトナム国ホーチミン
	事業内容	各種機械、電子・通信機器・計器、工具、関連資材等の販売、据付工事・エンジニアリング、アフターサービスなどの輸出入、販売代理業務
	資本金	640億ベトナムドン（約3億円）

  
2019年2月28日開催の開所式の様子

**東南アジア戦略**

- ベトナム
- シンガポール
- タイ

  15  
Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

また、グローバル事業のトピックスとして、ベトナム現地法人の設立について、ご説明いたします。

当社は、2011年 ホーチミンに駐在員事務所を設立し、活動して参りました。

近年 ベトナムは、インフラ、環境、製造業への設備投資が活発で、工業化が進展しつづつあります。

今後も日系企業の進出増加が見込まれるなど、収益への寄与が期待できると判断し、昨年12月 ホーチミンに現地法人を設立し、本年1月より営業を開始いたしました。

既に日系化学会社より大型製造設備の注文をいただくなど営業活動も、活況を呈しており、早期に収益の柱になるものと期待しております。

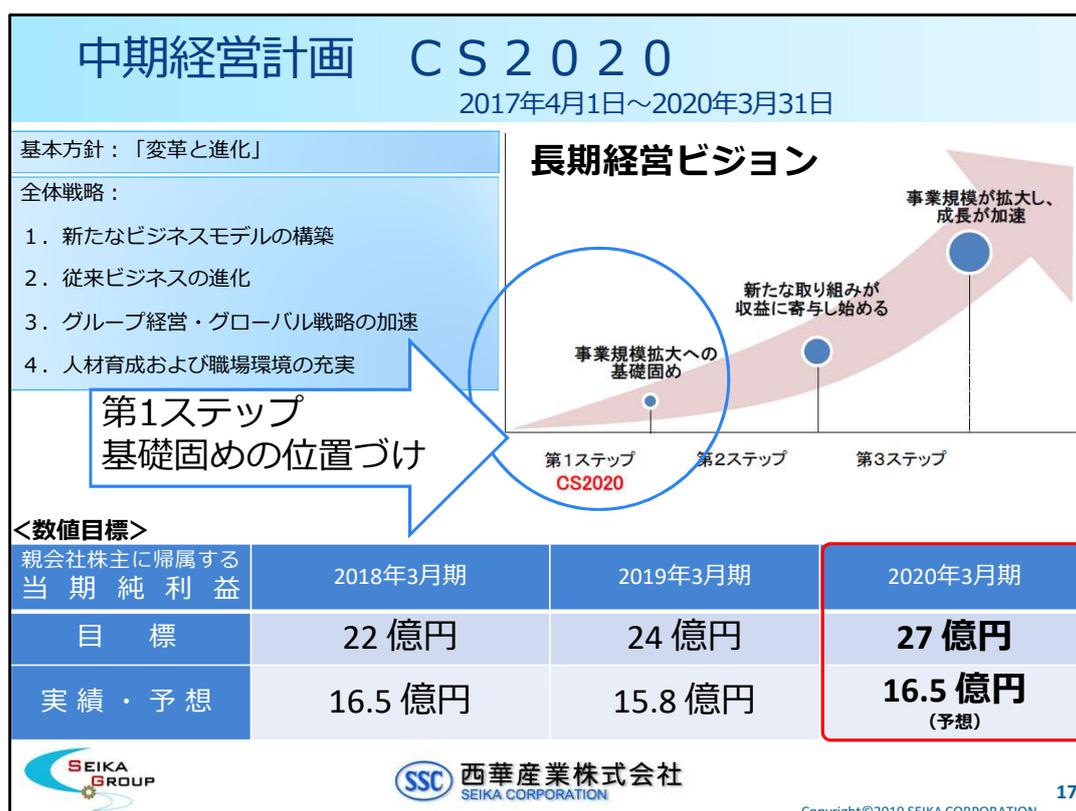
西華産業ベトナムは、タイやシンガポールなど、当社グループ拠点と連携しながら、東南アジア市場を開拓し、グローバル事業の拡大に繋げて参ります。

### 3. 中期経営計画

---



これからは、当社の中期経営計画について、  
ご説明いたします。



中期経営計画CS2020は、長期経営ビジョンの第1ステップとし、「事業基盤拡大への基礎固め」の時期と位置付けております。

当社グループの「事業領域の多様化」を進めていくために、ビジネスモデルの「変革」と従来ビジネスの「進化」が必要不可欠であり、4つの全体戦略を推進しております。

中期経営計画の数値目標に対し、実績は未達ですが、その要因は明確となっております。

初年度は海外子会社の特損、2年目は一部子会社の業績不振、そして単体における輸出商談の期ずれによるものです。

特に業績不振の子会社におきましては、事業戦略の見直しや、人材の追加投入を実施しており、業績の回復に繋がるものと考えております。

各事業について、改めて事業環境を  
分析しましたところ、長期経営ビジョン  
および中期経営計画の基本戦略は妥当性を失って  
おらず、今後も、基本戦略に基づく各施策を  
確実に進め、目標達成に向けて邁進して  
参ります。

中期経営計画			
	事業環境 事業の特色	事業の方向性	成長 戦略
電力事業	脱炭素社会を目指す流れから、石炭火力発電所の新設投資が減少するものの、定期検査工事等の安定的な収益を見込む	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原子力発電所向け防災・保安設備に注力</li> <li>●既存火力発電設備 延命化への取り組み</li> <li>●環境配慮型の小型水力発電（再生可能エネルギー分野）に注力</li> </ul>	戦略的 M & A を展開
化学・エネルギー事業	国内設備の老朽化問題、設備の延命化、省人化のための投資は増加傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>●顧客工場の近くに支店を配置する利点をいかしニーズにあったソリューションを提供</li> <li>●プラント延命化の設備改造商談への取り組み</li> <li>●電気自動車関連商談 拡大に注力</li> <li>●バイオマス発電等の再生可能エネルギー分野に注力</li> </ul>	
産業機械事業	電気自動車、新素材、繊維、フィルム、飲料・食品等の幅広い産業分野の顧客に対して特殊性ある設備の販売やメンテナンスを提供		



18

Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

ここからは、各事業に係る外部環境や、事業の方向性について、お話いたします。

当社を取り巻く環境は、脱炭素社会を目指す流れから、石炭火力発電商談において新設の投資が減少しております。一方、国内設備の老朽化問題が顕在化しており、設備の延命化や省人化のための設備投資が増加傾向にあります。

そのような事業環境の下、電力事業は、火力発電設備のメンテナンスや原子力発電所向け商談等により、安定的な収益を見込んでおります。加えて、九州、四国地区で実績のある原子力発電所向け商材をその他の地域にも展開し、収益拡大に繋げて参ります。

化学・エネルギー事業および産業機械事業においては、従来の商談に加え、再生可能エネルギー分野であるバイオマス発電、電気自動車、先端材料向け開発及び製造設備、プラント延命化の設備改造等の商談に注力いたします。

これら従来ビジネスの進化と共に、  
将来を見据えた収益源拡大の為、  
戦略的M&Aも展開して参ります。

また、グループの持続的な成長と中長期的な  
企業価値向上のために、コーポレートガバナンス  
の充実や社員の働き方改革を推進しております。

併せて、指名・報酬審査委員会を取締役会の下に  
設置するなど、健全で透明性の高い経営体制の  
確立に努めております。

## 4. 株主還元（配当、自己株式取得）

---



ここからは、  
株主還元につきまして、ご説明いたします。

# 株主還元 配当について

2017年10月1日付で  
普通株式5株を1株に併合しております。  
影響する箇所につきましては、  
株式併合後の数値にて表記しております。

## 基本方針

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとしており、  
安定的な配当をすることを基本方針としております。  
営業・財務両面にわたる効率的な業務運営により、経営基盤の強化を図るとともに、  
新しい事業の開発などの資金需要に柔軟に対応しながら、  
**連結配当性向 35%を目途にいたします。**



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとし、安定的な配当をする事が基本方針であります。また、連結配当性向は35%を目途にしております。

2020年3月期の配当につきましては、中間配当20円に期末配当25円を加えた年間45円を予定しております。

自己株式取得について	
2019年5月10日開催取締役会の決議事項 自己株式取得について	
取得期間	2019年5月13日 ~ 2020年3月19日
取得しうる 株式総数	400,000株（上限）
株式の取得額 の総額	7億円（上限）
  <span style="float: right;">21</span>	

次に、自己株式の取得について、ご説明いたします。

5月10日開催の取締役会におきまして、5月13日から来年3月19日までの期間に、40万株、7億円を上限として、自己株式を取得する決議をいたしました。

当社は引き続き、配当方針および通期の業績等を総合的に勘案して積極的に株主還元に取り組んで参ります。

株主、投資家を含む全てのステークホルダーの方々にとって、分かりやすい会社を目指し、事業戦略等、様々なメッセージを発信して参りたいと考えております。

引き続き、ご指導ご鞭撻賜りたく お願い申し上げます。

# ご清聴ありがとうございました

将来の予測に関する注意事項：

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、若しくは不確定な要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

## IRに関するお問い合わせ先

西華産業株式会社 経営企画本部 企画部

Tel : 03-5221-7117 Fax : 03-5221-7130

E-mail : SMB002@jp.seika.com



22

Copyright©2019 SEIKA CORPORATION

以上をもちまして、  
2019年3月期の決算説明を終了させていただきます。  
皆様、ご清聴、誠にありがとうございました。